



ルターはヒトラーの先駆者だったか

宮田光雄 著

(みやた・みつお氏は東北大学名誉教授)

宗教改革論集

宗教改革の真の継承とは

《信仰義認論》の核心をなす《神の恵みによる解放》と《キリスト者の自由》。それが《予定説》と結びつき、さらにはバルトによつて乗り越えられていく壮大な神学のドラマ。宗教改革の信仰的洞察が造形の世界にもたらした豊かな果実。ホロコーストをはじめとするナチズムの惨禍に対する宗教改革責任論の是非。
昨年500年を迎えた宗教改革の原点、表現、そして神学と思想の影響史に迫った渾身の論集。

8月25日発売

◆四六判・上製・278頁・本体2750円

I 宗教改革の原点——歴史と伝説のあいだ

- 1 われここに立つ——ウォルムスの信仰告白
- 2 ルター伝説のトボグラファイ

II 美術史の中の宗教改革

- 3 宗教改革者の肖像——ルーカス・クラナハの信仰と芸術
- 4 アルブレヒト・デューラーと宗教改革
- 5 忘却された宗教改革期の美術から——リーメンシュナイダーとグリューネヴァルト
- 6 ビーテル・ブリュゲルの絵画を読む

III 宗教改革の精神と神学——ルター・カルヴァン・バルト

- 7 宗教改革の神学的特性と精神態度
- 8 二つの宗教改革——ルターとカルヴァン 予定信仰の比較から
- 9 宗教改革者たちを越えて——カール・バルトの予定信仰

終章 ルターはヒトラーの先駆者だったか

付論 エキュメニズムはどこに向かうのか

既刊

イエスのたとえ話の再発見

ヨアヒム・エレミアス著／南條俊二訳

8月25日発売

◆四六判・並製・294頁・本体3000円

たとえ話研究に金字塔を打ち立てた名著

イエスのたとえ話は、民衆や敵対者に語られ、聴衆に福音への応答を迫ったが、初代教会の寓喩的解釈などによって本来の意図から逸れて伝承された。

著者は卓越した語学力と分析力、またパレスチナの文化風土に関する該博な知識に基づいてイエスの本来の意図に迫ろうとする。

本書は『イエスのたとえ話』の学術版から純粹に言語的な資料や注を割愛し、ギリシヤ語やアラム語に精通しない読者にも研究の核心を伝えるべく編まれた普及版の全訳である。底本は最新の改訂が反映された英語普及版第5刷。

イエスの譬え

〈オンデマンド版〉

◆四六判・298頁・本体3000円

エレミアス著・善野碩之助訳

ドイツ語普及版(66年)の全訳

イエスの譬え話1

ガリラヤ民衆が聞いたメッセージを探る

山口里子著

◆四六判・198頁・本体2000円

イエスの譬え話2

いのちをかけて語りかけたメッセージは?

山口里子著

◆四六判・245頁・本体2200円

●新規オンデマンド化

バルト 和解除論Ⅱ/4 A5判・448頁・本体9400円

バルト 和解除論Ⅳ A5判・378頁・本体9000円

テイリツヒ 組織神学 第三巻 A5判・570頁・本体9500円

教会教義学は全巻オンデマンド化されました。

ジョン・デア著／志村真訳

剣を収めよ 平和の証人たち (仮題)

イエスの言葉と振舞いにそれぞれの場で誠実に従い続けた現代の平和の証人たちの足跡をたどる。活きた平和の神学。◆四六判・予価1600円

栗林輝夫著／西原廉太・大宮有博編

アメリカ現代神学の航海図

複雑かつ活発な運動を絶やさないアメリカ現代神学の鮮やかな見取り図。〔栗林輝夫セレクション〕2。◆A5判・予価5500円

関口安義著

評伝 矢内原忠雄

新渡戸・内村の薫陶を受け、伝道を志しつつ、経済学者として優れた業績を上げ、軍国日本と対決して野に退き、戦後は東大総長として再建日本の精神的指導に挺身した無教会キリスト者の生涯を、綿密な調査を基に描きあげた1100枚の大作。◆A5判・予価8000円

アンゲラ・メルケル著／松永美穂訳

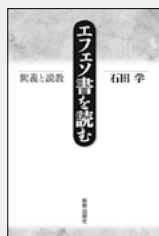
私の信条 信仰と政治 (仮題)

東日本大震災後に原発からの撤退を決断し、また難民の積極的な受け入れを指示するなど、彼女の政策は世界に大きな影響を及ぼしている。本書は、教会関係の集会などで語った演説や聖書研究などを収録し、その信仰観や人生観を余すところなく伝える。◆四六判・予価1900円

●7月に出た本と雑誌

エフエソ書を読む

石田学著 釈義と説教 ◆四六判・本体2000円



毎週の説教を作る作業で行う釈義と、その結果としての説教を示す。読者はテキストと会衆を繋ぐ働きを体験しながら、エフエソ書の深い理解に導かれる。教会における多様性を尊重しながら主にある一致を求めつけた初代教会の姿。

〔重版されました〕

人間への途上にある福音

フロマートカ著／平野清美訳／佐藤優監訳

佐藤優氏が「この本が私の人生を定めた」と語る名著。信仰論を通して、世界の中で積極的に奉仕の務めを負う強烈な召命観を語る。◆四六判・本体3500円

福音と世界

◆税込635円

8月号 特集 国家、天皇制、キリスト教

寄稿者・白石嘉治、上村静、鈴木裕子、伊東朝日太郎、インタビュアー内田樹／松浦純、IKAZUGOKE、森宣雄、ブレイディみかこ、石井光太、辻学、内田樹、芦名定道、望月麻生、佐藤優

編集部から

●もう2018年も半分以上がすぎました。今年観た映画でとくに印象深かったのはジャパニーズホラーの『霊的ポリシエヴィキ』（高橋洋監督）でしたが、さいさん観た『菊とギロチン』（瀬々敬久監督）は、それに勝るとも劣らない衝撃の一作でした。ときは1923年の関東大震災直後。アナキスト・中濱鐵をはじめとするギロチン社の面々が、日本各地を巡業する「女相撲」の一座と出会い、互いの生き方をぶつちあつていくアナキー青春群像劇です。いまをときめく俳優の東出昌大や、『霊的〜』でも主演をつとめた韓英恵といった役者陣の熱気ほとばしる演技は、たんなるイデオロギーなどではない、人間の（コン）パッションにたいする絶対的な信としてのアナキズムをあざやかに表現していました。

●ところで、『福音と世界』10月号もアナキズム特集。『菊とギロチン』のノベライズをてがけた栗原康さんなどが寄稿予定です。そこで編集部では、こうした寄稿者の方々に集まっていたいただき、キリスト教の問題点と可能性をさらに掘りさげていく連続トークイベントを企画しました。新宿の書店「模索舎」

さんと共催のこのイベント、ぜひお越しください！（堀）

●8月は2冊の新作をお送りします。エレミアスは5月号でいちど告知しましたが、諸般の事情で刊行が遅れておりました。宮田先生の本は、解放としての宗教改革の本義を多面的に検証しておりますので、くれぐれも熱中症に気をつけてお過ごしください。（小林）

続べるもの／叛くもの

統治とキリスト教の異同をめぐって

Vol.1「身体・秩序・クイア」

8月31日（金）

登壇者 要友紀子、佐々木裕子、堀江有里

Vol.2「自己・神・蜂起」

9月13日（木）

登壇者 白石嘉治、栗原康、五井健太郎

いずれも新宿・カフェ★ラバンディアにて20時〜21時30分。

資料代500円

+1ドリンクオーダー 予約不要

福音と世界

2018年
9

A5判・80頁・定価635円・送料70円
年間予約購読料（送料共）8460円

特集「食と「動物の権利」」

アニマル・ライツ

主よ、憐れみたまえ——キリスト教的視点から肉食を考える——浅野幸治

生きることと食へること——現代キリスト教神学と動物倫理——鬼頭篤子

畜産動物の福祉を考える——佐藤衆介

食の選択の文化的背景を考える——野林厚志

生き物を食へる——フード・アクティビズムの可能性——草柳千早

若い人々に仕えることへの招き……藤原佐和子
個・関係性・人格性 ルターの問題とわれわれ……松浦純

【好評連載】
◆野に咲く民衆の神学 6……森 宣雄
◆地のいと低きところにホサナ 9……ブレイディみかこ
◆福音の地下水脈 11……KAZUGOKE
◆みことば散歩 21……望月麻生
◆現代神学の冒険 24……芦名定道
◆聖書とわたし 30……谷崎榴美
◆新約釈義 第一テーマ書 31……辻 学
◆レヴィナスの時間論 41……内田 樹
◆佐藤優のことばの履歴書 54……佐藤 優